

平成23年度

財団法人JKA補助事業

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー
実施報告書

財団法人コンピュータ教育開発センター



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

はじめに

近年、インターネットやパソコン、携帯電話などICTが日常生活に欠かせないものとなり、子どもたちも学習や友達とのコミュニケーションなどに頻繁に利用するようになってきている。今後、インターネットやパソコン、携帯電話・スマートフォン・PHS（以下「ケータイ」とする）などの特性を踏まえ、積極的・主体的に活用していく子どもたちを育成していくことが望まれる。

一方、インターネット上では、誹謗中傷やいわゆる「ネットいじめ」、青少年を対象とした犯罪や違法・有害情報、いわゆる「ケータイ依存」などの問題が数多く発生しており、これらの問題に適切に対応できるよう、「情報モラル」について指導することが必要となっている。

このような状況を受け、新学習指導要領では、その総則で「情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにする」などとして、すべての教科等においてすべての教員に情報モラル教育の実施を義務づけ、学校における情報モラル教育をさらに充実させることとした。

しかし、子どもたちのインターネット利用実態調査を見てみると、彼らがインターネットやパソコン、ケータイ等を利用するのは、家庭や友達の家、通学路などの学校外での使用が圧倒的に多くなっている。このような学校外でのICT利用を適切なものとするためには、学校で情報モラル教育を行うだけでなく、保護者や地域住民の方々にも「情報モラル」について理解していただき、家庭での約束づくりや地域における「見守る目」作りなどを行っていただくことが必要である。そのような家庭や地域での「情報モラル教育」の推進が喫緊の課題となっていることは、文部科学省の『教育の情報化に関する手引』で、「第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」としてわざわざ情報教育とは別に章を起こしていることでもわかる。このような家庭・地域と連携した情報モラル教育の実現を目指したのが、本「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」である。

CECでは、平成20～22年度に子どもたちと保護者・地域住民を対象に実施された「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の成果を受け、平成23年度から、各学校の先生方が「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」や「情報モラル教育研修会（校内研修会・地域研修会）」の講師となることを可能とする「ネット社会の歩き方」講師幾瀬セミナーを実施し、多くの児童生徒、保護者・地域住民の方たちが情報モラルについて学ぶことができるようにした。

また、本年度はスマートフォンの普及やゲーム端末からのインターネット接続など、これまでインターネットの入り口であったパソコンや携帯電話以外での多様なプラットフォームの情報端末から各種教材を利用できるようマルチプラットフォームかを行うとともに、これまで国内の情報モラル教材等デジタル教材へ窓口であったならNICER（教育情報ナショナルセンター）が廃止されせっかくの各種情報モラル教材が散逸している状況となったことから、「ネット社会の歩き方」の「情報モラル教育ポータルサイト化」も行った。さらに、文部科学省が新学習指導要領下でいかに教科等で情報モラル教育を行うかを示した『情報モラル教育実践ガイダンス』の新「情報モラル教育モデルカリキュラム」の「チェックリスト」と完全に対応させ、より学校現場で利用しやすくした。

本事業は、子どもたちがネット社会に正しく対応できるようになることを目的としており、学校の先生が各教科等の中で情報モラル指導を正しく行うことができるよう、家庭では保護者や子ども自身が情報モラルを学ぶための一助となる情報を提供するものである。

本報告書は、これらの活動の成果と課題及びアンケート調査により明らかになった実態等について、記したものである。今後は、本事業の成果物を生かし、より多くの先生方が講師となって、家庭や地域での「情報モラル教育」がより普及していくことを期待している。

平成24年3月

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー検討委員会委員長
鳴門教育大学准教授 藤村 裕一

目 次

1 . 事業概要	1
1 . 1 事業の目的	1
1 . 2 事業の内容	1
(1) 委員会の設置	2
(2) 講師育成セミナー開催地の募集	3
1 . 3 事業の経過	4
2 . 講師育成セミナーの開催	5
2 . 1 講師育成セミナーの目的	5
2 . 2 セミナーの概要	5
2 . 3 セミナー開催団体一覧	6
2 . 4 開催団体からの報告	7
2 . 5 アンケート結果より	25
3 . マルチプラットフォーム対応情報モラルデジタル教材の開発	28
3 . 1 デジタル教材マルチプラットフォーム化の目的	28
3 . 2 マルチプラットフォーム対応デジタル教材の概要	28
(1) アプリ「めざせ！ケータイ マスター」	28
(2) アプリ「ネット社会の歩き方」	29
(3) 情報モラルポータルサイト「ネット社会の歩き方」	30
4 . 検討委員から 感想と今後の課題	31
5 . まとめ	46
5 . 1 本年度の成果	46
5 . 2 次年度へ向けての課題	47
アンケート質問票	48

1 . 事業概要

1 . 1 事業の目的

ネット社会の普及により、パソコンや携帯電話などの情報端末からインターネットを利用することは一般的なこととなり、多くの情報を手軽に入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったりできるようになった。しかし、一方ではプロフや無料ゲームなどのコミュニティサイトを利用した犯罪に子どもたちが巻き込まれる例も発生している。

これまでコンピュータ教育開発センター（以下、CECと称す）では、危険ということでインターネットから遠ざけるのではなく、子どもたちがインターネットを上手に使い、インターネットと上手に付き合っていけることが大切であるという考え方で、「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接児童生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩けばよいのかを指導するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたこともあり、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導ができるように、今年度から情報モラル指導の講師を育成すべく、教職員や教育委員会の指導主事を対象としたセミナーを開催することとした。

一方、昨今のiPhoneやAndroidなどのスマートフォンの普及やゲーム端末からのインターネット接続など、これまでインターネットの入り口であったパソコンや携帯電話以外での多様なプラットフォームの情報端末からインターネットが利用されるようになっており、それは子どもたちの環境においても同様である。そのような状況において、情報端末を子どもたちから遠ざけるのではなく、情報端末から子どもたち自身が、または家庭で保護者と一緒に、情報モラルが学べるようなデジタル教材の開発を行うこととした。

本事業は、子どもたちがネット社会に正しく対応できるようになることを目的としており、学校の先生がそれぞれの教科の中で情報モラル指導が行えるよう、家庭では保護者や子ども自身が情報モラルを学ぶため、一助の情報を提供するものである。

1 . 2 事業の内容

平成22年度の「親子のためのネット社会の歩き方」検討委員会にて活躍頂いた有識者と、今回新たに招いた委員も含めて、検討委員会を設置し以下を実施した。

- ・全国18箇所の教育委員会等において、教職員と指導主事を中心とした「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーの実施
- ・iPhoneやAndroidなどのスマートフォンなど、マルチプラットフォームで動作する情報モラル用デジタル教材の開発

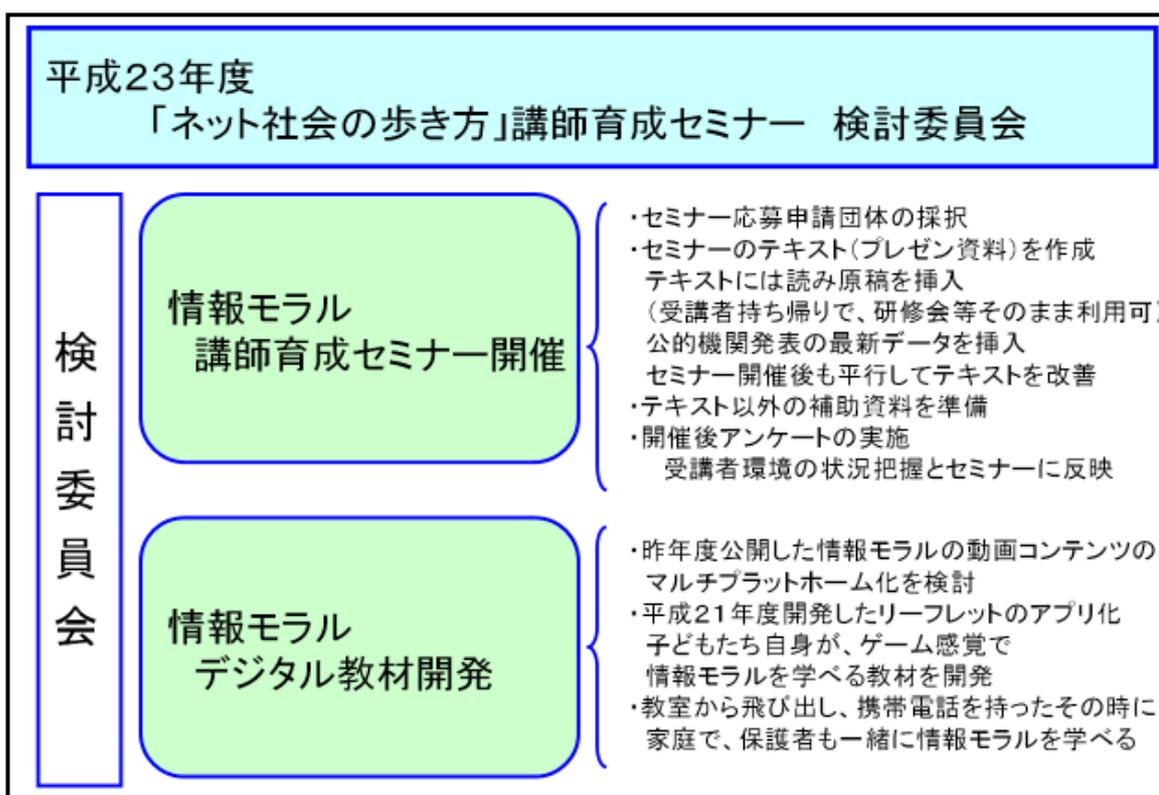
(1) 委員会の設置

当財団に委員会を設置し、セミナー開催に関する活動とデジタル教材の開発、及び報告書の執筆とアンケートデータ分析などを行った。

検討委員名簿

委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学
委員	石原 一彦	岐阜聖徳学園大学
	井上 勝	八千代松陰高等学校
	榎本 竜二	東京女子体育大学
	梶本 佳照	三木市立教育センター
	木村 和夫	台東区立浅草小学校
	佐久間 茂和	台東区立教育支援館
	高橋 邦夫	千葉学芸高等学校
	西田 光昭	柏市立田中小学校
	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中学校

実施概要図



(2) 講師育成セミナー開催地の募集

以下の要領で募集を行った。

- ・テーマ：「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー
- ・開催時期と時間
平成23年6月から平成23年12月の間の 午後半日を1回（原則）
（貴教育委員会で企画する研修会等の1小間としてご活用いただくことも可能です。）
- ・対象受講者と会場あたりの定員
指導主事、教職員 約50名程度（目安）
（定員は目安であり、これを上回る、あるいは下回る人数での応募も妨げません。）
- ・開催会場
教育委員会や自治体の施設等無償の会場
- ・セミナーの具体的な内容
セミナーの具体的な内容については、当財団に設置される「講師育成セミナー検討委員会」が貴教育委員会と協議して決定します。
セミナーの例として下記のような 理論編 ワークショップ を組み合わせた構成が考えられます。
第1部：理論編 60分
 テーマ：情報モラル教育の現状やその重要性について
 概要：社会や学校生活における情報モラルに対する現状認識と今後の方向性について
 ・学校における情報モラル指導事例の紹介
 講師：学識経験者

第2部：ワークショップ 90分
 第1部の講師に司会をお願いし、ワークショップ形式で会場の参加者と意見交換を行う。
 なお、参考として平成20年度～22年度に実施した情報モラル等の普及セミナー「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」教材を添付しますのでご参照ください。

1.3 事業の経過

平成23年

- 4月19日 講師育成セミナー検討委員会 第1回 開催
今年度事業の確認と講師育成セミナー開催応募団体の採択を審議
また、セミナーの研修内容案についての検討を宿題とした
- 5月13日 講師育成セミナー検討委員会 第2回 開催
セミナーの研修内容とプレゼン資料を検討
セミナー受講者アンケート案を検討
- 5月31日 講師育成セミナー検討委員会 第3回 開催
セミナーで使用するプレゼン資料を検討し、標準版を決定。
各々のセミナーでは標準版プレゼン資料に講師個々の資料を追加して利用
- 6月2日 下関市教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 6月3日 京都府教育庁による講師育成セミナーを開催
- 6月7日 新庄市教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 6月17日 愛媛県教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 6月21日 香川県教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 6月21日 滋賀県教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 6月27日 やまぐち総合教育支援センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月1日 東大阪市教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月6日 倉敷市教育委員会情報学習センターによる講師育成セミナーを開催
- 7月13日 山形県教育庁高校教育課による講師育成セミナーを開催
- 7月27日 明石市教育委員会による講師育成セミナーを開催
- 7月28日 津市委員会事務局による講師育成セミナーを開催
- 8月4日 盛岡市教育研究所による講師育成セミナーを開催
- 8月5日 デジタル教材開発委員会 第1回 開催
デジタル教材仕様検討と開発会社の採択を実施
- 8月16日 川崎市総合教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 8月26日 柏市教育研究所による講師育成セミナーを開催
- 10月15日 大阪私学教育情報化研究会による講師育成セミナーを開催
- 11月21日 豊中市教育センターによる講師育成セミナーを開催
- 12月2日 山口県高等学校教育研究会による講師育成セミナーを開催

平成24年

- 3月6日 講師育成セミナー検討委員会 第4回 開催
来年度事業の確認と講師育成セミナー開催応募団体の採択を審議
デジタル教材の開発状況を確認

2 . 講師育成セミナーの開催

2 . 1 講師育成セミナーの目的

新しい学習指導要領の総則では「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載され、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をすることが必要になった。そのためCECでは、全ての教職員が情報モラル指導を行えるようにするための準備、具体的には情報モラル指導をできる教職員を増やすための校内研修会などを計画、開催する手助けをすることとした。その手助けとして「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーと称した情報モラル指導の講師を育成するためのセミナーを開催した。セミナーではネット社会の現状からはじまり、指導に必要な教材、コンテンツなどの情報提供から実体験、研修会計画の組み方などをワークショップで体験できるようにした。

2 . 2 セミナーの概要

セミナーは以下の内容について、講師より講義形式で実施する。

- 1 . データから見るネット社会の現状
- 2 . 情報モラルの指導（理論編）
- 3 . 情報モラルの指導（実践編）
- 4 . 「ネット社会の歩き方」の活用
- 5 . その他の教材の紹介
- 6 . 保護者との関わり
- 7 . 問題発生時の対応

これら内容を講義にて一通り学び、その後受講者には各自のパソコンからWeb上の情報モラル関連のコンテンツ、例えばCECが公開している「ネット社会の歩き方」などの教材コンテンツを実際に体験してもらった。セミナーの最後には、学んだ情報や体験したコンテンツをもとに、受講者のグループ毎に、情報モラル指導のための校内研修会を計画してみるというテーマでワークショップを実施した。

2.3 セミナー開催団体一覧

表 採択された申請者と担当講師

	申請者	校種	申請者種別	地区	講師
1	下関市教育委員会学校教育課	小・中学校	市教育機関	山口県下関市	佐久間委員
2	京都府教育庁指導部学校教育課	小・中学校	府教育機関	京都府伏見区	石原委員
3	新庄市教育委員会 学校教育課	小・中学校	市教育機関	山形県新庄市	佐久間委員
4	愛媛県教育委員会義務教育課	小・中学校	県教育機関	愛媛県松山市	三宅委員
5	香川県教育委員会義務教育課	小・中学校	県教育機関	香川県高松市	西田委員
6	滋賀県教育委員会 事務局	小・中学校	県教育機関	滋賀県大津市	石原委員
7	やまぐち総合教育支援センター	小・中学校	県教育機関	山口県山口市	西田委員
8	東大阪市教育センター	小・中学校	市教育機関	大阪府東大阪市	石原委員
9	倉敷市教育委員会情報学習センター	小・中学校	市教育機関	岡山県倉敷市	藤村委員長
10	山形県教育庁高校教育課	高等学校	県教育機関	山形県天童市	藤村委員長
11	明石市教育委員会 教育研究所	小・中学校	市教育機関	兵庫県明石市	梶本委員
12	津市委員会事務局 教育研究支援課	小・中学校	市教育機関	三重県津市	三宅委員
13	盛岡市教育研究所	小・中学校	市教育機関	岩手県盛岡市	木村委員
14	川崎市総合教育センター情報・視覚センター	小・中学校	市教育機関	神奈川県川崎市	三宅委員
15	柏市教育研究所	小・中学校	市教育機関	千葉県柏市	榎本委員
16	大阪私学教育情報化研究会	高等学校	私学研究会	大阪府大阪市	高橋委員
17	豊中市教育センター	小・中学校	市教育機関	大阪府豊中市	石原委員
18	山口県高等学校教育研究会情報部会	高等学校	県教育機関	山口県山口市	榎本委員

2.4 開催団体からの報告

講師育成セミナーの開催団体からは、セミナー開催ご実施報告書としてレポートを提出頂いている。ここでいくつかの開催団体からの実施報告書（抜粋）を示す。

(1) 下関市教育委員会

開催日時	平成23年6月2日(木)午後1時30分～午後4時40分
開催場所	菊川ふれあい会館
参加者人数	73名 内訳：指導主事 3名 小学校教員 47名 中学校教員 23名
セミナーの狙い	新学習指導要領に基づいた情報モラルについての知識や理解を深めるとともに、効果的な指導法について研修する。
考察	講演では、パソコンでのプレゼンテーションにより、ネット社会の実態把握や実践的対応について理解を深めることができた。ワークショップでは、校種別グループに分かれて、教育現場での実践に向けて具体策を考えることができた。
セミナー開催後について	各校内で実施予定。(今後も年1回、市教委主催で情報モラル研修会を実施していく。)
セミナーの様子	

(2) 京都府総合教育センター

開催日時	平成23年6月3日(金)午後1時00分～午後3時00分
開催場所	京都府総合教育センター
参加者人数	29名 内訳：指導主事 3名 研究員 1名 小学校教員 11名 中学校教員 4名 高等学校教員 5名 特別支援学校教員 5名
セミナーの狙い	京都府総合教育センターが2日間実施する「ICT活用特別講座」の講義として実施。講座のねらいは、「情報教育の推進とICTを活用した授業の活性化を図るとともに、教員のICT活用指導力向上を推進するリーダーを養成する。」
考察	情報モラルの現状や実践事例等をわかりやすく講義いただき、各校のICT指導者が学ぶ内容にふさわしいものとなった。また、いただいた資料も各校の研修等で活用できるものであった。
セミナー開催後について	京都府総合教育センターでの集合型研修の実施計画はないが、各学校への「出前講座」を学校からの要請により実施する。(7月は、1校より要請) 又、本研修は指導者養成講座であることから、受講者が所属する各学校において、校内研修等を企画、実施する予定である。
セミナーの様子	

(3) 新庄市教育委員会

開催日時	平成 2 3 年 6 月 7 日 (金) 午後 1 4 時 4 0 分 ~ 午後 1 6 時 4 0 分
開催場所	新庄市教育委員会
参加者人数	3 3 名 内訳：指導主事 2 名 管理職 7 名 小学校教員 9 名 中学校教員 5 名 高等学校教員 5 名 特別支援学校教員 5 名
セミナーの狙い	情報教育推進委員会 (小中情報教育担当教員) では、新学習指導要領で示された情報モラル教育の実践事例の紹介と各校で公開している H P 掲載内容の配慮、個人情報保護に関する配慮等 生徒指導主任主事会では、ケータイコミュニケーションの実情と危機回避法についてとインターネット上の具体的被害の例
考察	現在、学校現場で起こっているインターネット上の具体的被害の例などを伺いその対処法を知ることができた、各校の I C T 指導者が持ち帰り直ぐに実践できる内容であった。また、いただいた資料も各校の研修等で活用できるものであった。
セミナー開催後について	どこからモラルについて話せばよいのかわからないうでいました。初めての研修だったのでわかりやすい内容でした。受講者の 4 3 % は今年度情報モラルの研修は予定していなかったが、研修の開催を検討するとしている。
セミナーの様子	 

(4) 愛媛県教育委員会

開催日時	平成23年6月17日(金)午後1時00分～午後4時00分
開催場所	愛媛県総合教育センター
参加者人数	40名 内訳：小学校教員 20名 中学校教員 20名
セミナーの狙い	県内各市町から選出された小中学校教員に対し、情報モラル教育が必要とされる背景や情報モラルの指導内容、年間指導計画の立て方及び研修プログラム作成等の研修を行い、各市町における教員研修の核となるICT活用推進リーダーを養成する。
考察	ネット社会の実態、授業の事例、教員研修に役立つ資料及びサイトの紹介などを交え、分かりやすく即実践につながる研修であった。研修の後半では、教員研修用のプログラムを作成するワークショップを取り入れ、グループで練り合う中で、各学校・地域の実態に合った研修プログラムとするための様々なアイデアを共有することができた。 受講者は、既に各市町の情報教育推進の中核として活動しており、情報モラル教育に関する知識を身に付けている。そのため、研修への目的意識が高く、主体的に取り組んでいた。改善点としては、前半の講義の時間を短縮して、ワークショップの時間に充て、発表や協議の場面を十分に確保するとよかったと思われる。また、校内研修や各地域の研修を企画したり運営したりする力を高める内容(模擬研修等)を取り入れると一層実践的なものになったのではないかと思う。
セミナー開催後について	今後各地域で実施予定
セミナーの様子	 

(5) 香川県教育委員会

開催日時	平成23年6月21日(火)午後1時30分～午後4時00分
開催場所	香川県教育センター
参加者人数	24名 内訳：指導主事 3名 小学校教員 14名 中学校教員 7名
セミナーの狙い	学校現場における情報モラルの指導の充実が喫緊の課題となっており、教職員からも、より実践的な研修を要望する意見が多く出されていることから、本セミナーを開催することにより、今後、核となる指導者を育成し、県内の教員の指導力向上に資する。
考察	本県では、これまでに「携帯安全教室」を行ってきている。しかし、昨今のパソコンや携帯電話、特にスマートフォンの普及により、学校現場における情報モラルの指導の充実がより喫緊の課題となってきている。そのような中で、本セミナーを開催した。 西田先生の講演、ワークショップでは、様々なデータをグラフで示されるとともに、分かりやすくご説明いただいた。「情報モラル」授業実践キックオフガイドの説明では、5つの指導内容と各学年における関連を実際の冊子の一部を提示しながら説明していただいた。新学習指導要領の記載されている各教科や特別活動などと情報倫理、情報安全の関連を図式化され、説明していただいた。これらのことは、教員であれば、どこかで目にしていることの多い内容ではあるが、西田先生のように系統立てて整理し、理解している教員は少ないのではないだろうか。さらに、様々な授業での指導例を示していただく中で、情報モラルの指導の形がよりはっきりと見えてきた。「ネット社会の歩き方」のホームページの紹介では、様々な教材があり、指導内容に即して選びながら指導できることを知りました。本県教員の情報モラルの指導力向上のためにも、このセミナーは有意義なものであったと感じている。また、本セミナーに関するアンケートの結果では、多くの教員が情報モラルの指導の大切さを大変よく感じたと回答していることから、セミナーに参加した教員は、それぞれの学校、地域で情報モラルの指導を行っていくものと期待している。
セミナー開催後について	現在のところ、本セミナー後に情報モラルに関する研修会は、行っていないが、本セミナーで、学んだ教員が各学校、各地域の情報モラル教育の中心的役割を担っていただけるよう、助言等を行っていききたい。また、本セミナーでの様々な資料や紹介いただいた「ネット社会の歩き方」のホームページを活用していけるよう広く周知していききたい。
セミナーの様子	 

(6) 滋賀県教育委員会事務局

開催日時	平成23年6月21日(火)午後1時30分～午後4時30分
開催場所	滋賀県総合教育センター
参加者人数	24名 内訳：指導主事等 21名 小学校教員 2名 中学校教員 1名
セミナーの狙い	本県教職員のICT活用指導力ならびに情報モラルに関する指導力の実態を踏まえ、一層の指導力向上を目指す必要があります。そのために、本セミナーを教職員への伝達を目的とした指導者育成の場として位置付け開催しました。
考察	参加者からは、「様々な角度から情報モラルに関する内容を具体的に教えていただくことができ、理解しやすかった。」との感想があり大変好評であった。参加者の多くは市町教育委員会の指導主事等であり、今後市町での研修を考えていきたい旨が事後のアンケートに記され、広がり期待したい。
セミナー開催後について	・「開催予定」は4市町 ・「現在予定はないが計画する」は7市町
セミナーの様子	

(7) やまぐち総合教育支援センター

開催日時	平成23年6月28日(月)午後1時~午後3時50分
開催場所	やまぐち総合教育支援センター
参加者人数	33名 内訳: センター所員 10名 小学校教員 6名 中学校教員 11名 特別支援学校教員 6名
セミナーの狙い	情報教育に関する指導力を高めるため、情報モラル教育の知識や指導方法について研修する。
考察	講義では、情報社会の影の部分だけがクローズアップされがちであるが、情報モラル教育を進めることにより、光の部分により効果を発揮し、情報の有効活用が進められるという点が特に印象的であった。受講者は、日々の学校教育における継続的な情報モラル教育の重要性を理解し、児童・生徒の情報モラルを高めることの必要性を実感したようである。また、実際の教育現場での情報モラル教育のためには、教員全体の情報モラルの研修が必要であると感じた受講者が多かったようである。ワークショップでは、学校現場での取組を具体的に検討・実習することができ、非常に好評であった。
セミナー開催後について	今年度14回の情報モラル研修の実施予定
セミナーの様子	 

(8) 東大阪市教育センター

開催日時	平成 2 3 年 7 月 1 日 (金) 午後 3 時 3 0 分 ~ 午後 5 時 0 0 分
開催場所	東大阪市立柏田中学校 P C 教室
参加者人数	6 7 名 内訳 : 指導主事 3 名 小学校教員 4 1 名 中学校教員 2 1 名 高等学校教員 2 名
セミナーの狙い	情報化社会に参画する態度等の育成に向けて必要な資質や指導力の向上を図るため。
考察	情報化する社会に対応すべく、学校現場における情報モラル教育の必要性を大いに感じた。
セミナー開催後について	現時点で、研修は実施していない。
セミナーの様子	

(9) 倉敷市教育委員会 倉敷情報学習センター

開催日時	平成 23 年 7 月 6 日 (水) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 4 時 40 分
開催場所	ライフパーク倉敷
参加者人数	84 名 内訳：指導主事 2 名 小学校教員 57 名 中学校教員 17 名 高等学校教員 3 名 特別支援学校教員 (中学部) 1 名 その他 4 名
セミナーの狙い	ワークショップ形式を含む研修を行うことで、各校の情報教育推進リーダーの指導力を向上させる。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・現状に即した講演内容であったので、改めて情報モラル教育を行う必要性を理解することができた。 ・ワークショップ研修では、研修参加者同士が資料内容や学校の現状を話し合うことにより、実際に学校で行う研修を意識しながら活動することができた。寸劇を行ったり資料を手に持ったプレゼンテーションをしたりと、活動を工夫していた。他のグループの発表を見ることにより「校内研修の新しい開催方法を学ぶことができた。」と、会場のあちこちで声が聞かれた。
セミナー開催後について	<p>情報学習センター主催の情報モラル研修を 6 回実施した。 (情報セキュリティ研修は、 2 回実施) (小・中・高・特別支援各校では、全 95 校で職員対象「情報モラル研修」を短い時間でも必ず 1 回は行ったと報告があった。ただ、「情報モラル」と「情報セキュリティ」との内容が混在しているので、今後の課題としたい。) (H24.2 に追加報告を頂いた)</p>
セミナーの様子	

(1 0) 山形県教育委員会

開催日時	平成23年 7月13日(水)午後 1時00分～午後 3時00分
開催場所	山形県教育センター
参加者人数	81名 内訳：指導主事 3名 高等学校教員 76名 その他 2名
セミナーの狙い	すべての先生がすべての教科等で情報モラル教育を行うために、生徒指導主事に対して講師育成セミナーを実施して、各校において情報モラル教育を推進する。
考察	各学校、各教科等で情報モラル教育を実施するための教材が豊富に準備されており、今回の研修の成果を実際に授業等で実践できる手立てが施されている。
セミナー開催後について	県教育委員会での開催予定なし
セミナーの様子	

(1 1) 明石市教育委員会 教育研究所

開催日時	平成23年 7月27日(水)午後 2時00分～午後 4時30分
開催場所	明石市民会館 第1・2会議室
参加者人数	43名 内訳：指導主事 1名 小学校教員 27名 中学校教員 13名 その他 2名
セミナーの狙い	情報モラルに関する理解を深めるとともに、各学校において情報モラル教育に関する研修会を開催する際の在り方や方法等について研修を深める。
考察	研修の前段では、講師先生から現在のネット社会の現状とそれを受けての「情報モラルの指導」(理論編・実践編)等について具体例も交えながらの説明がなされた。 後段では、参加者を少人数グループに編成し、「情報モラルに関する校内研修計画」をワークショップ形式で作成した。短時間ではあったが、各校での実情をふまえた意見交換がなされ、それぞれのグループで今後活かしていけそうな計画書が作成された。 最後にお互いの計画書について発表しあい、研修が深められた。 この研修内容を各校に持ち帰り、これからの取組に大いに活用してもらいたいと願っている。
セミナー開催後について	現時点で、研修は実施していない。
セミナーの様子	

(1 2) 津市委員会

開催日時	平成23年 7月28日(木)午後1時30分～4時30分
開催場所	津市立東橋内中学校 パソコン教室を利用
参加者人数	25名 内訳：指導主事 5名 小学校教員 10名 中学校教員 10名
セミナーの狙い	津市では、2年ほど前から各学校のICT化に取り組むとともに、情報モラルに関する教育にも取り組んできた。本年度、さらに各校での取組の充実を図るため、貴センターの支援をいただき、実際各校で子どもたちの指導に当たる教員の指導力を高めたい。
考察	情報モラル教育の具体的な指導について、理論的な内容と、ワークショップ等を通して参加者に能動的に考えさせる場面設定があり大変有効であった。最後にお互いの計画書について発表しあい、研修が深められた。この研修内容を各校に持ち帰り、これからの取組に大いに活用してもらいたいと願っている。
セミナー開催後について	生徒指導の教員が今年度校内研修を検討
セミナーの様子	

(1 3) 盛岡市教育委員会

開催日時	平成23年8月 4日(木)午後2時00分~午後4時40分
開催場所	盛岡市立津志田小学校
参加者人数	35名 内訳：指導主事 2名 小学校教員 30名 中学校教員 3名
セミナーの狙い	新学習指導要領の完全実施にあたり、「情報モラル教育」の必要性については研修を行ってきたが、実際の授業の進め方等については不十分な面があった。市内各学校の代表者を通じて「情報モラル教育」の必要性や、具体的な指導方法について知る場を設けることで、情報モラル教育を各校に浸透させることをねらいとして本セミナーを実施した。
考察	「講師育成セミナー」ということで、各校の代表者が、今後、校内研修や授業等ですぐ使用できる資料やウェブサイトをご紹介いただき大変参考になった。また、短時間ではあったが、少人数でのワークショップを行うことで、参加者が校内に広めるための方策について具体的に考えることができ、非常に有意義であった。
セミナー開催後について	市教委として1回。さらに、各校で校内研修が実施されるよう働きかけを行う。
セミナーの様子	

(1 4) 川崎市教育委員会 総合教育センター

開催日時	平成23年8月16日(火)午後1時30分~午後4時30分
開催場所	川崎市総合教育センター
参加者人数	23名 内訳：指導主事 4名 小学校教員 11名 中学校教員 4名 高等学校教員 1名 特別支援学校 3名
セミナーの狙い	新学習指導要領に基づき情報モラル教育を行うに当たり、教員にとって利用価値が高いと思われる「ネット社会の歩き方」を教材として学ぶことで、各校、全市への情報モラル教育の普及、定着を図っていく。
考察	実践的な研修ができ、受講生には好評であった。また、時間をかけて「ネット社会の歩き方」等の教材を見ることができ、今後の実践の参考になったと思う。
セミナー開催後について	1回(11月に予定)
セミナーの様子	

(1 5) 柏市教育研究所

開催日時	平成 2 3 年 8 月 2 6 日 (金) 午後 1 時 3 0 分 ~ 午後 4 時 0 0 分
開催場所	柏市沼南庁舎 PC 研修室
参加者人数	1 8 名 内訳 : 小学校教員 5 名 中学校教員 2 名 管理職 2 名 I T 支援員 9 名
セミナーの狙い	柏市では、夏期休業中に教職員情報活用講座 (平成 2 3 年度は 2 0 講座) を予定している。その中に、情報モラル教育に関する知識を身につけ、情報モラル教育の具体的な指導について研修する講座を位置づけたいと考えている。そのねらいを達成させるためには、「ネット社会の歩き方指導者育成セミナー」が最適であると判断したため。
考察	「ネット社会の歩き方」を活用した具体的な指導方法や指導上の留意点について研修を深めた。
セミナー開催後について	現在予定はないが依頼されると思う。
セミナーの様子	

(1 6) 大阪私学教育情報化研究会

開催日時	平成23年10月15日(土)午後2時~午後5時15分
開催場所	プール学院高等学校(
参加者人数	36名 内訳：指導主事 1名 中学校教員 5名 高等学校教員 26名(ただし、私学なので中高併設も多数) その他 4名
セミナーの狙い	インターネットや携帯電話など日常生活と学校での生活環境の間にギャップが深まってきていることは否定できない。このセミナーを通してネット利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について指導いただき、多くの現場の教員が学習することにより、学校を超えてともに学びあうスタートとしたい。
考察	本事業は、子どもたちがIT社会に正しく対応できることを目的として、子どもとその親を対象に情報モラルやセキュリティに関するセミナー・授業を実施できる指導者を養成し、セミナー・授業のための教材・情報を提供、さらに家庭にて「情報モラル」が親子のコミュニケーションの題材となるような情報の提供を実施されています。今回のセミナーの中で使用されたパワーポイント教材が「ネット社会の歩き方」の「教材の一括ダウンロード」のページからダウンロードできるということは大変効果的です。(欠席されたメンバーなどにも知らせることが可能でした。)また、このパワーポイント教材は、情報モラル講師を育成するための情報(コメントやしゃべる台詞)が掲載されていたり、特に参考ページの項目は順番に紹介するだけでもあまりわかっていない先生方にも大変わかりやすく整理されており、各々の学校や部会にてモラルセミナーなどを開催する際に、すぐに利用できる内容ということを確認しました。このパワーポイント教材を、さらに具体的に紹介していきたいと思います。そして実際に生徒、児童が今までインターネットや携帯について学校では影の部分しかあまり習ったことがないが、影の部分以外に光の部分がたくさんあることも実感してくれたらと思います。その上で教員も含めて子どもたちも、現在の情報通信ネットワークを取り巻く危険や懸念などを知り、情報セキュリティの重要性を理解し、ネットやケータイと付き合い合っ欲しいと願っています。
セミナー開催後について	10月21日 大阪私学高等学校 生活指導部会 11月 1日 大阪私学高等学校 人権部会 12月 大阪私学高等学校 情報化研究会研修会
セミナーの様子	 

(1 7) 豊中市教育委員会

開催日時	平成 2 3 年 1 1 月 2 1 日 (月) 午後 2 時 3 0 分 ~ 午後 4 時 1 5 分
開催場所	豊中市立第一中学校 コンピュータ教室
参加者人数	4 6 名 内訳：指導主事 2 名 小学校教員 2 8 名 中学校教員 1 6 名
セミナーの狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラル教育の意義について理解する ・ 情報モラル教育の学習指導要領上の位置づけ ・ 子どもたちの情報活用能力 (情報社会に参画する態度) の育成のための授業方法 ・ 情報モラル教材の紹介と活用法
考察	<p>教育委員会が実施している夏季休業中の教職員研修においても情報モラル教育についての内容はあるが、教職員の意識が ICT 活用の授業づくりや校務での ICT 活用と比較して高いとはいえない現状がある。各学校の情報担当者がこのセミナーに参加して子どもに情報活用能力をつけるための教育活動の具体的方策について学べたことは大変有意義であった。今後、校内にもその意識が拡がり、今後の校内研修の実施や教育委員会のフォロー研修への参加にもつながることを期待している。</p>
セミナー開催後について	現在までのところありません。
セミナーの様子	

(1 8) 山口県高等学校教育研究会情報部会

開催日時	平成23年12月2日(金)午後13時00分～午後15時00分
開催場所	山口県セミナーパーク
参加者人数	43名 内訳：指導主事 1名 高等学校教員 40名 やまぐち総合教育支援センター職員 2名
セミナーの狙い	「情報モラル」教育の概念と指導方法について。 新教育課程で実施される「社会と情報」「情報の科学」の共通指導内容である「情報モラル」の指導方法を習得する。 各学校で、新入生入学時の「情報モラル」教育に対する指導内容の参考のため。(山口県では、新入生に対して入学説明会等で指導を義務づけられている。)
考察	「情報モラル」教育に対する取り組みは、各校で個別に対応していた。携帯電話に対するトラブル事例をあげながらの説明など思いつくままの内容であった。このセミナーで、「情報モラル教育」の概要と体系が理解でき、バランスよく体系的に説明するノウハウが理解できた。
セミナー開催後について	各校で、情報Aの授業内容・新学期での新入生への指導として実施される予定である。また、新教育課程で実施される「社会と情報」「情報の科学」の「情報モラル」の項目でたいへん参考になり、授業実施に対するスタンダードを与えてもらった。
セミナーの様子	 

2.5 アンケート結果より

セミナー開催後に受講者に対して、今後のセミナーに反映してゆくため、セミナーの内容や提供した教材・資料に対する意見などについてアンケートを実施した。以下にその結果を記載する。

18会場で開催し、受講者は約720名（回答アンケートは約600名）、1会場平均33名程度であった。

当初、1会場当たり50名を予定して計画したが、受講者が利用できるパソコンの準備を会場にて準備頂くよう要望したため、会場に中学校のパソコン教室が用意される結果となり、結果として会場の収容人数能力が低くなってしまったため、受講者数が計画を下回った。

(1) 受講者のプロフィール

性別、年代について

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	無回答	合計
男性	78	119	180	126	3	3	509
女性	26	25	17	19	2	1	90
無回答	0	1	4	0	0	0	5
合計	104	145	201	145	5	4	604

所属（校種）について

学校					行政	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他			
291	134	132	14	5	23	5	604

受講者の約半数（291名）が小学校教諭、その約半分が中学校教諭（134名）と高等学校教諭（132名）となった。

職名について

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
5	2	11	505	37	3	40	603

主な分掌分野について

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	無回答	合計
113	125	54	332	21	59	25	729

複数回答可

分掌分野は、半数以上が情報教育担当であった。

担当教科について

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
277	59	50	13	33	58	62
英語	音楽	美術	書道	保体	その他	合計
17	8	6	0	32	24	639

(2) 受講者について これまでの情報モラルとの関わり

受講者の 68.0%がこれまで指導者養成の研修会を受けたことがなく、87.3%が講師を行ったことがないが、ない」と回答した。

過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか。

ある	ない	無回答	合計
190	411	3	604

過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか。

ある	ない	無回答	合計
75	527	2	604

(3) 本セミナーの受講の動機

本セミナーの受講動機について

1: 情報教育の担当になっているため	343
2: 情報モラル指導のレベルアップのため	159
3: 上司からの指示があったため	135
4: その他	72

複数回答可

受講動機の「その他」については、「他の研修会との関連」(20件)や、「情報モラル関連の自己啓発」、「情報収集」などのコメントがあった。

(4) 本セミナーに対する評価

本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

参考にならない	1	2	3	4	参考になる
	2	31	188	377	

無回答
6

評価理由のコメント

以下のような意見が多く見られた。

- ・ 具体的な内容の資料をたくさん頂いた。
- ・ 参考になる、すぐ活用できるコンテンツ、教材を紹介頂いた。
- ・ ワークショップがよい情報交換の場になった。
- ・ 最新で、すぐに使える情報があり、ありがたい。

少数意見ではあるが以下のような意見もあった。

- ・ セミナーの時間が短い、進行が早すぎという意見があった。(各々1件)
- ・ 実例や実際に起こった問題事例の提示が欲しいとの意見があった。(2件)
- ・ ワークショップ についてどう行うのか、なぜ行うのかという疑問。(1件)

本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

活用できない	1	2	3	4	活用できる
	1	26	181	386	

無回答
10

評価理由のコメント

以下のような意見が多くあった。

- ・多くの具体的内容な資料をたくさん頂き、すぐに活用できる。
- ・教材が開かれた形で公開されており、パワーポイントの資料も活用出来る。
- ・具体的な教材やわかりやすい映像の他指導案やワークシートが見られてよいと感じました。

少数意見ではあるが以下のような意見もあった。

- ・研修資料を、まず自分が理解、把握する必要がある。
- ・情報量が多いので総括するのが難しい、学校の実態に合わせて扱いたい。

(5) セミナー開催後の研修予定について

本セミナー以降に、情報モラルに関連したセミナーや研修を開催する予定があるか。

1:開催予定はなし	270
2:現在予定はないが計画する	219
3:開催予定がある	50
4:その他	6

受講者の約4割から、今後セミナーや研修の開催を計画すると回答を頂いた。

(6) その他の感想、意見について

代表的なご意見を、次に示す。

- ・本日は実践するための知識・方法を教えて頂きありがとうございました。
- ・HPなどわかりやすく実際に使える教材をご提示いただきありがとうございました。
- ・ワークショップがよかったが、もう少し時間が欲しいくらいだった。

3 . マルチプラットフォーム対応情報モラルデジタル教材の開発

3 . 1 デジタル教材マルチプラットフォーム化の目的

昨今の iPhone や Android 端末などのスマートフォンの普及やネット接続ができる携帯ゲーム機など、これまでインターネットの入り口であったパソコンや携帯電話以外に、多様なプラットフォーム、端末からインターネットに接続できるようになった。それは子どもたちの環境においても同様であり、有害サイトへのアクセスを防ぐフィルタリングなど、あらたな端末環境での設定する必要がある。

C E C は、このように新しく多様な情報端末が利用される状況において、情報端末を子どもたちから遠ざけるのではなく、むしろ子どもたち自身が情報端末を用いて、または家庭などで保護者と一緒に、情報モラルが学べることを目的に、マルチプラットフォーム対応デジタル教材の開発を行うこととした。

3 . 2 マルチプラットフォーム対応デジタル教材の概要

今回開発したデジタル教材は、子どもたち自身で利用できることを考慮し、iPhone や Android 端末などのスマートフォンで動かすことのできるアプリとして開発することとした。それらアプリは、子どもたち各自が情報モラルに関してどれくらい理解できているかをゲーム感覚で判定できるアプリ「めざせ！ケータイマスター」と、その判定結果に応じて情報モラルを学んで貰うためのアニメコンテンツを格納したアプリ「ネット社会の歩き方」とした。



平成 2 1 年度開発リーフレット教材（表面）

（1）アプリ「めざせ！ケータイ マスター」

「めざせ！ケータイ マスター」は、平成 2 1 年度「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」検討委員会で開発した「そのとき、きみならどうする！？」というリーフレット教材をベースに開発された。

このリーフレット教材は、表裏の 2 面構成で、表面では具体的なトラブル場面を盛り込んだストーリーを展開させ、選んだ選択肢に応じて設けられた複数の結末のひとつにたどり着く。裏面では導かれた結末ごとの解説が示され、指導や注意などのコメントを読むことで各自が学ぶような教材であった。



「めざせ！ケータイ マスター」スタート画面

今回はこのリーフレット教材をベースに、さらに興味をもちながら学べるようなゲーム形式とした。スタートはリーフレット教材と同様に「メール」「ゲーム・アプリ」「プロフ・ツイッター」といった3つの入口から選択して始められる。選択したコースにより、質問内容は異なるが、「ケータイ依存」「コミュニケーション」「マナー」「ネット被害」の4つのカテゴリの中から2問ずつ出題され、8つの質問に答えると、各質問の回答結果も反映させて、最後に診断結果を



「めざせ!ケータイ マスター」質問画面

グラフで表示する。すべてのカテゴリにおいて達成していると、ケータイ マスターの賞状が表示され、達成できていないカテゴリがあると、再チャレンジの画面が表示されて、その部分の学習ができるようになっており、関連する「ネット社会の歩き方」アニメコンテンツも提示するようになっている。

このアプリが開発されたことで、子どもたちがスマートフォンを手にするような個々の機会にあわせて、より興味を持って利用されるような伝達方法で、子どもたちが自ら情報モラルを学べるような教材ができあがった。教室の中での利用とまた異なった利用方法で、異なった効果が得られるものと思われる。

(2) アプリ「ネット社会の歩き方」

C E Cでは平成22年度の「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」検討委員会で改版し、大型画面対応、音声追加などして開発したアニメコンテンツ「ネット社会の歩き方」を、C E Cのホームページで平成23年5月から公開している。今回、それらアニメコンテンツ「ネット社会の歩き方」を iPhone や Android などのスマートフォンで利用してもらえるよう、アプリ化を行った。



アプリ「ネット社会の歩き方」スタート画面

今回のアプリ化に際して50件のアニメコンテンツそのものはホームページで公開中のものと同じものを提供するが、子どもたちにも利用しやすいように各コンテンツを選ぶための入り口を見直してわかりやすくし、携帯端末でも操作しやすいようにした。また、コンテンツの表示画面ではマウスではなく画面上での操作を意識したインターフェースとし、ボタン操作なしでも次画面に進むような動作仕様に見直した。



また、以上のような操作、インターフェース面の見直しの他に、先に説明したように「めざ

せ！ケータイ マスター」から「ネット社会の歩き方」に連携できるようにして、iPhone や Android などのスマートフォンの環境で利用してもらえるようにした。

(3) 情報モラルポータルサイト「ネット社会の歩き方」

開発自体は平成22年度になるが、平成23年5月からアニメコンテンツを中心とした情報モラルポータルサイト「ネット社会の歩き方」を公開した。講師育成セミナーでは、これら「ネット社会の歩き方」の紹介も行っており、セミナーでのアンケート結果にもこれらポータルサイトに対して「すぐにでも使える豊富な資料や、教材が掲載されており、教職員の手間をかけない学習指導案やワークシートなどをダウンロードできる点が有り難い」等のコメントを頂いた。サイトのアクセス数も公開した5月はまだ十分に周知されていない影響があったが、6月以降はほぼ10,000回以上のアクセス数がコンスタントに記録されている。

年月	アクセス数
2011年5月	1,018
2011年6月	12,901
2011年7月	11,637
2011年8月	8,985
2011年9月	10,395
2011年10月	12,036
2011年11月	11,917
2011年12月	9,166
2012年1月	12,092
2012年2月	15,258
平均	10,540

また、公開した5月から2012年の2月までのコンテンツ毎の合計アクセス数をみると、左表のような結果が得られている。順位1, 2のコンテンツは小学校向けのコンテンツであるが、順位3以降は中学生以降を対象にしたコンテンツであり、各種コンテンツがそれぞれの年代層に対応して、参照、利用されている様子がうかがわれる。

順位	コンテンツ	アクセス数
1	06 ネットで悪口は要注意	13,740
2	07 ネットで悪口が罪になる	10,515
3	02 こんなWebサイトに気をつけて	8,472
4	04 危険な商品に注意	7,001
5	15 チャットで個人情報と言わない	6,636
6	25 チェーンメールはカット	6,392
7	24 ネット上のあぶない出会い	5,286
8	01 Webサイトの情報を活用しよう	5,145
9	29 ネット依存に注意	4,844
10	47 無料につられたら...	4,731

平成23年度で開発したデジタル教材とともに、情報モラルポータルサイト「ネット社会の歩き方」も情報モラル指導に対して頼りになるサイトとして、今後も継続して掲載情報の追加、更新をしてゆく。

4 . 検討委員から 感想と今後の課題

セミナーを終え、各委員から得られた感想と今後の課題を次頁以降に示す。

石原 一彦 委員
榎本 竜二 委員
梶本 佳照 委員
木村 和夫 委員
佐久間茂和 委員
高橋 邦夫 委員
三宅 健次 委員

1. セミナーに関して

本事業では、昨年度「ネット社会の歩き方」が改訂され、計画されたセミナーの中で、京都府総合教育センター、東大阪市教育センター、滋賀県総合教育センター、豊中市教育センターの4箇所での研修を担当した。以下はその概要である。

2. セミナー実施

(1) 京都府総合教育センター

実施日：平成23年6月3日 / 実施時間：13時～15時の2時間 / 参加者数：25名

申請の理由：京都府総合教育センターの平成23年度「ICT推進特別講座」における「情報モラル」の講義において活用を図りたい。

(2) 東大阪市教育センター

実施日：平成23年10月7日 / 実施時間：15時30分～17時の1時間半 / 参加者数：

83名

申請の理由：最近の情報社会において、「情報モラル」が喫緊の問題となってきたことから、子どもや保護者に「情報モラル教育」をするにあたり、教職員の研修が必要になってきたため。

(3) 滋賀県総合教育センター

実施日：平成23年6月21日 / 実施時間：15時～16時30分の1時間半 / 参加者数：40名

申請の理由：本県教職員のICT活用指導力ならびに情報モラルに関する指導力の実態を踏まえ、一層の指導力向上を目指す必要があります。そのために、本セミナーを教職員への伝達を目的とした指導者育成の場として位置付け、申請するものです。

(4) 豊中市教育センター（豊中市立第一中学校）

実施日：

平成23年11月21日 / 実施時間：14時30～16時15分の1時間45分 / 参加者数：43名

申請の理由：豊中市では、小学校41校、中学校18校を有しており教育の情報化を推進する組織としてコンピュータ教育推進委員会がある。年3回実施する委員会のうち1回で、当指導者育成セミナーを開催し、情報の科学的な理解や情報社会に参画する態度を育成するためのカリキュラム作りの参考としたい。



京都府総合教育センターでのセミナーの様子



豊中市教育センターでのセミナーの様子

3 . セミナーを終えての感想と課題

本セミナーは、基本的には伝達講習の形態を取っている。そのため、受講者が学校現場や教育委員会で教員研修などを企画する場において指導者としてどのような内容をどのように指導すればよいか、「指導方法を指導する」ことが求められる。つまり本セミナーでは、スライドの内容を説明するだけでなく、スライドの使い方やなぜそのような内容を指導しなければならないかなども押さえることが必要である。本事業では、情報モラルの授業で使用する教材としてフリーで使える「ネット社会の歩き方」や、指導者用のスライドや各種ワークシート等も用意されているので、「指導方法を指導する」ための準備は整っていた。伝達講習としての成果は達成できたように思われる。

講習を終えた参加者からの感想には次のようなものがあった。「日々、進んでいく情報化社会の中で、どのように生活していくのか、また、子ども達、保護者の方々に知って貰う参考になりました。」「こんなにたくさんのフリーの教材があるとは知りませんでした。伝えていって、子ども達の情報モラルの向上を図っていきたいと思います。」「多くの資料の中から子どもにあったものを選び、校内で共有し、実践していきたいと思います。」いずれの意見も前向きで情報モラルの指導を積極的に進めていこうとする姿勢が見られる。今後もより多くの受講者を集め、情報モラルを指導できる教員を少なくとも各学校に一人は育成する必要があるだろう。

1. 具体的なセミナー事例

私が担当した柏市教育研究所と山口県高等学校教育研究会情報部会に対するセミナーは、まったく異なる状況で行った。前者が会議室で少人数を相手に行う形式であるのに対し、後者は研修用のPC教室で大人数に向けて行う形式だった。具体的な研修内容は以下の通りである。

(1) 少人数向けセミナー

小学校教諭5名、中学校教諭2名、指導主事(IT支援員)等9名という対象者にセミナーを行った。教師だけでなくIT支援員という立場の聴講者がいたことが特徴である。そのため、セミナー教材に沿っただけの通り一辺倒な進行は避け、可能な限り身近な題材を織り交ぜるようにした。聴講者が実際にセミナー講師となったときに気をつける点ができるように、スライドごとの重み付けや活用の仕方を説明した。

ワークショップの題材もセミナー教材にある参考例のみではなく、「学区ごとに研修を行う場合は各校で発生している事例を出し合って交流するだけでも大きな力になる」という事例などのアドバイスを行った。

セミナーは会議室内のスクリーンにプロジェクターで投影する形式のため集中度も高く、各自のノートパソコンで教材の確認も行えるため、スムーズに終えることができた。

(2) 大人数向けセミナー

情報部会に所属する専門の教員が対象のため、用語をかみ砕いて説明する必要はなく、自らが講師として進めるにあたっての注意点に気づくように進行を行った。部屋が広いので全員の集中を維持することは難しいが、解錠に問いかけを行うことで緊張を維持するように努めた。

指導主事やIT支援員が講師を務めるのとは違い、情報担当の教員はあくまでも学校では同僚のため、研修を担当するときの負担は大きい。また、直接保護者とも対峙するのも教員であるため、保護者が全員揃うチャンスである入学前事前説明会の活用も重要なポイントであることも伝えた。

大人数では目の前のパソコンに関心がいってしまう聴講生が必ず出てしまうが、話者が定位置で



柏市立教育研究所でのセミナーの様子



山口県高等学校教育研究会情報部会でのセミナー

固定するのではなく、聴講生が教材確認する間も机間巡視することで緊張を維持することができた。もっとも、今回は意識の高い参加者のため心配は無かったが、実際に各校で行われる研修では注意すべき点である。

2. セミナーの感想

どの地域もそうであるが、本セミナーへの応募から実施に至るまでのすべてに渡って、現地の担当者が非常に精力的に動いている印象がある。それだけ情報モラルに対する危機感や意識が強いことがわかる。なんとかしなければいけないが、どうしたらよいか、何を始めたら良いかわからないという声が数多く聞かれた。そうした中で本セミナーを利用することで、少しでも問題解決を図り前に進むという強い意志が感じられた。そのような力が支えてくれたおかげで、全国に講師を派遣するという困難な事業でも完遂することができたのだと思う。

情報モラルに真剣に取り組んでいる教育委員会の関係者や各校の教員、IT支援員たちの様子をわずかでも各校の教員や保護者、子どもたちに伝えられるすべがあればと常に考えてしまう。

3. 今後の課題

申し込んできた自治体に合わせてセミナーを行うわけであるが、その設定時間や対象者、実施環境に大きな差異がある。今回のケースではなかったが、場合によってはセミナーの意図も理解しないまま受講しているケースも今後は出てくるであろう。

「講師育成セミナー」であるわけだから、育成された講師たちが各校に戻って実際に研修を担当するときの状態を設定した進行を想定して提示することも一つの解決策と思われる。具体的には、校内で行う時間(おそらく50分以内)での模擬研修を見せてから、実はここの話のポイントは・・・というように、あとから指摘していくセミナーのやり方などである。モデルとなる形から各自自治体や学校にあった形にアレンジできる余地があった方が、実情に合った研修を設計できるのではと思った。

寄せられた希望や、こちら側が用意できるリソースなどをうまくすりあわせていき、よりよい指導が全国的に展開されることを希望したい。

1. 具体的なセミナー事例

(1) はじめに

兵庫県明石市の小中学校教員を対象に校内で情報モラル教育を広げていくための指導者を養成する研修会として開催された。各学校から1名が参加していたが、特に学校の教育の情報化担当者であるとか道徳の担当者ということではなかった。セミナーが始まる前に、参加者数人に参加した目的を聞いたみたところ、研修で得たことを校内に広めようとはまだ意識していないという方もおられた。そこで、セミナーの最初にこの研修会の目的は、情報モラルの現状や指導方法を知るとともに、情報モラルの指導方法を校内で広げていく力をつけてもらうことであると述べセミナー受講者の気持ちをそろえることにした。研修会参加者に講座の目標を共通理解してもらうことは、講座を進める上で大切なことである。

(2) セミナーの内容

セミナーテキストの構成を基に研修を進めていった。

ネット社会の現状を色々なデータをもとに知る。

ネット社会の諸問題、サイバー犯罪の件数や内訳、携帯電話の保有率、携帯電話の使用内容、ネットいじめの実態、学校裏サイトの実態調査結果、サイト・スレッドへの書き込み内容を説明した。

情報モラルの指導についての理論について知る。

情報モラルが必要とされている理由、情報モラルの定義、情報モラルの指導内容について理論面から理解してもらうように説明した。

情報モラル指導モデルカリキュラムにそって小中高等学校で指導する情報モラルの内容を説明した。

情報モラルの指導についての実践方法について知る。

小中高等学校の学習指導要領から見た情報モラルについて各教科領域で行う実践内容を説明した。

「ネット社会の歩き方」の紹介と情報モラル指導への活用方法について知る。

「ネット社会の歩き方」の内容を紹介し、授業に活用していくための意欲づけとなるように説明した。今回の会場では、個々やグループでコンピュータを使うことが出来ないために、講師からの説明のみにした。

その他の情報モラル指導に活用することができるサイトについて知る。

インターネット上も含めて、公開されている教材について紹介した。

保護者との関わり

情報モラルの指導を進めるにあたって、保護者も関心を持ってもらうことの重要性を説明した。

携帯電話を子どもに購入するのは保護者であるとともに、学校外で使用する場合はほとんどであるので、携帯電話を安全に賢く利用していくために、家庭の役割は重要であることを強調した。

さらに、学校への持込を禁止しているので学校で情報モラルについて指導しなくても良いという考えは間違いであることを説明した。

問題発生時の対応

ネット上でトラブルに巻き込まれた時の対処方法について説明した。児童生徒からの相談を受ける立場にある学校としては、一通りの対処方法は知っておく必要があることを述べた。

ワークショップ

ワークショップでは、校内でどのように情報モラル教育を広めていくのという研修プランや授業プランについて、グループごとに模造紙にまとめて発表してもらった。

まとめ

情報モラル指導は、全教師が取り組んでいく必要があることを強調した。また、保護者にも働きかけていく必要性について再度確認した。

2 セミナーの感想

ワークショップは、学校で行う情報モラルの研修方法や授業研修会の方法について発表が行われた。各グループとも良くまとまった発表であった。

また、課題に書いた方が良いかもしれないが、セミナーを始める前にその会の目的を参加者に確認し、気持ちを揃えておくことの大切さを感じた。

から までに時間を多くとってしまい、具体的な教材の説明に取れる時間が少なくなってしまった。具体的な研修内容や授業内容を考えるに当たって、「ネット社会の歩き方」と「その他の情報モラル指導に活用することができるサイト」について詳しく知ることは重要なことなので、セミナー全体の時間に合わせて調整すべきであった。

3 今後課題

研修会場の機器環境では、できなかったことではあるが、参加者には、ネット社会で起こっていることを詳しく知らない人も多かったようであった。このことから考えると、「ネット社会の歩き方」を個々に見る時間を多くとり、事例を見ながらネット社会の現状を実感してもらうことが必要であったと感じた。

グループで研修計画や授業計画を考える場合、具体的な教材を手元で詳しく見ていく必要があると思う。この点から、機器環境が整えにくい会場で事例を体験してもらう方法を考える必要がある。



明石市教育委員会でのセミナーの様子

木村 和夫 委員

1. 今年度の活動

今年度より CEC の委員として活動することとなった。

H23.4.19 第1回委員会

今年度から、「親子のためのネット社会の歩き方講座」より「ネット社会の歩き方講師育成セミナー」に変更されたため、指導教材の作成と検討を行うこととなった。私は小学校に関わる部分を佐久間委員と共に担当することとなった。

H23.5.13 第2回委員会

各委員が分担して作成した、講座のプログラムと指導教材用プレゼンテーションについて検討を行った。

H23.7.14 「ネット社会の歩き方講師育成セミナー」(山形県天童市)

藤村委員長が講師として指導する。私は講師の補助として同席し、セミナーの様子を見学する。

H23.8.4 「ネット社会の歩き方講師育成セミナー」(岩手県盛岡市)

盛岡市にて「ネット社会の歩き方講師育成セミナー」の講師として講演を行う。

H23.8.5 第3回委員会

携帯端末版「ネット社会の歩き方」コンテンツの検討を行う。

2. 岩手県盛岡市での「ネット社会の歩き方講師育成セミナー」について

岩手県盛岡市都南公民館小ホールにて、小学校教員を中心に3名の参加で、2時間30分のセミナーを行った。

藤村委員長が天童市で行ったセミナーにおいては、まず始めに天童市の高校生が携帯電話を使って様々な書き込みをしていたり写真を投稿したりしている実態を受講者に周知した。そのため、受講者が必要感を強く持ち積極的にセミナーに参加した。そこで、今回のセミナーでも受講者に少しでも必要感をもってもらうために、盛岡市の小学生もしくは卒業生による掲示板の書き込みの実態例を事前にプレゼンテーションに入れた。



盛岡市教育研究所でのセミナーの様子

当日はネットワークに接続された PC が 1 人につき 1 台ある環境で行われた。14時から16時30分までの予定であったが、はじめの挨拶や自己紹介。休憩時間などを考えると実質2時間程度のセミナーとなる。そこで講師による講義を70分、その後ワークショップを40分、最後の発表とまとめを10分程度と計画した。

はじめに、盛岡市の小学生もしくは卒業生の書き込みをプレゼンした。実名で学校名が出ていたので、非常に興味を持って話を聞いていた。講義自体は70分ですべてを話すことは難しいので、時間をかける部分とそうでない部分とをつくり、やや早足で話すこととなった。つたない話し方で

はあったが、集中して聞いてもらえたことを感謝したい。

後半のワークショップでは、4、5名のグループに分かれ、各校での情報モラル教育の研修計画を話し合うこととした。学校により状況は異なると思うが、情報交換を行う中で、自校の強みや課題が明確になってくるものと考えられる。最後にグループ毎に発表を行い、セミナーを終了した。



セミナーで使用した読み上げ原稿付きプレゼンテーション

4. 感想と課題

初めての講師であり、時間配分や説明の仕方に多々反省点はあったと考えている。次回同様の機会があれば、セミナーの時間をよく考えてもう一度講義の内容を精査し、メリハリを付けて話したい。

盛岡市の事例を提示したことにより、必要感を持って話を聞いてもらえた。途中の休憩時間では、当該校の先生と話す機会があり、「この実態は初めて知った、他の先生方にも是非知らせたい。」との話をいただいた。事例提示は有効であったと考える。

セミナー修了後のアンケートの「本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会実施の際に活用できますか。」という問いに対して、33名中23名がとても活用できると回答している。感想の中にも「情報モラル研修をするための資料や理論、実践等がしっかりとあり、とても参考になりました。直ぐに使えるコンテンツが多くて参考になりました。」等の記述があり、本セミナーの内容が実践的であると考えられる。

学校現場は、様々な教育施策が行われる中で、大きな多忙感を持っている。情報モラル教育を推進するためには、現場の先生方に必要感と誰でも簡単にできるという感触をもってもらうことが必要であると再認識した。本セミナーが全国に広まり、委員以外の講師による開催が少しでも増えることを望んでいる。

1. 今年度の活動...親子セミナーから指導者養成セミナーへの変更

20年度から昨年度までは、ネット社会の歩き方の情報モラル親子セミナーであったが、今年度は、成果の拡大を図るために、指導者養成セミナーに変更した。学校単位ではなく、各地の教育委員会が応募し、地域の教員対象に実施し、参加者が自校で情報モラルセミナーを開催できるように研修するセミナーである。

2. 指導者養成セミナーの内容と様子

セミナーは、CECの委員会が作成したプレゼンテーションでCECの委員から研修を受け、その後、ワークショップで少人数に分かれて学校の現状を話したり、研修会計画を立てるという流れである。

プレゼンテーションのプログラムは次の通りである。

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. データから見るネット社会の現状 | 4. その他の教材の紹介 |
| 2. 情報モラルの指導（理論編）（実践編） | 5. 保護者との関わり |
| 3. 「ネット社会の歩き方」の活用 | 6. 問題発生時の対応 |

この後、ワークショップになるが、ワークショップの活動内容は次の通りである。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1. グループごとに「研修計画」を立案する | 4. 発表する |
| 2. それぞれの職場に帰られたときにすぐに使える研修計画を話し合う | 5. 委員からのコメント |
| 3. 話し合った内容をプレゼンや模造紙等にまとめる | |

3. 教材の活用

各学校での研修で使えるように、セミナーで使用したプレゼンを提供できるようにした。CECのホームページからダウンロードし、自分の学校に合うように作り変えられるようにしてある。読み上げ原稿付きのプレゼンテーションなので、誰でも研修ができるようにした。先生方はもちろん、児童生徒・保護者が利用できる教材も提供している。



セミナーで使用した
プレゼンテーション

4. 山口県下関市のセミナー 6月2日

(1) 参加者について

男性が57人 女性が10人である。(アンケート回答者67人)40歳代・50歳代が中心で、小学校45人・中学校22人。教頭4人・教諭62人・指導主事1人である。過去に情報モラル指導者を養成するための研修会に参加したことがある人は2割。情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがある人は一人を除いていなかった。

(2) 研修会の様子

会場にはPCとネットワークの環境がなく、大会議室でのセミナーだった。67人と人数が多かったのが理由だった。学校単位での悉皆研修だったが、研修者は意欲的に参加した。特に、ワーク

シヨップでは、時間がゆったりととれていたの、熱心な討議が重ねられた。模造紙に書かれた自校での研修会の計画が、グループごとに発表された。ワークシヨップは成果が上がったと感じた。今回使用した教材については9割の人が『活用できる』と回答している。委員会の作成のねらいが生きていると感じた。また、25人が今後、研修会を予定していると答えていて、ワークシヨップで研修会の計画を立てたことも有効であった。

5 . 山形県新庄市のセミナー 6月7日

(1) 参加者について

男性17人であった。(アンケート回答者17人) 年齢は20歳代~50歳代まで、小学校中学校が半数、教諭が中心だったが校長も2人いた。過去に、情報モラル指導者を養成するための研修会に参加したことがある人が3割、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがある人も3割弱いた。

(2) 研修会の様子

17人と人数が少なく、会場にはPCとネットワークの環境が用意されていたので、下関市とは雰囲気も研修の中身がだいぶ変わった研修会になった。

講演終了後、CECのポータルサイトにアクセスして確かめることができた。やはりPC環境が大事であると感じた。少人数だったが、ワークシヨップでは、熱心に討議がなされた。

教材については、全員が参考になると回答している。またほとんどの人が今後の情報モラル研修会実施の際に活用できる、と回答している。半数以上が今後、研修会を予定していると答えている。研修会の成果が感じられた。



CECポータルサイト
「ネット社会の歩き方」

6 . 感想と課題

昨年度までの、親子対象のセミナーとは、中身も雰囲気もがらりと変わったが、昨年までのセミナーでは、普及という点では効果に疑問を感じていたの、今年の指導対象のセミナーは全国的な広がりをもたらす良いシステムであると思う。また、委員会で検討して作成したプレゼンテーションは、研修参加者の評判が良かったが、一番の評判は「そのまま使える」「自校の現状に合わせて作り直せる」というCECの姿勢とシステムによるものであった。

また、ワークシヨップも単に研修会に参加しただけで終わらないで、自校での研修会計画を立てる内容だったので、リアリティと切実感を感じて話し合いがなされたことはこのプログラムが有効であったと考える。

セミナー参加者の感想には、『全職員の前に教科で指導していくためのよい資料を得た』『利用できるサイト、活用できるコンテンツ等知ることができた』『教材としてはすごくよい、ネットから取れるというのもよい、使えると思う』『指導例等実際の指導の際に参考になる』『読み原稿がある、教材をある程度加工できる』などの教材に関する感想やワークシヨップをしたことを評価する内容が多かった。

また、『現在問題になっていることをもう少し具体的に教えて頂けるとさらによいと思う』『全職員にモラル指導ができるように計画を立てさせられるか不安な面もある』という要望や不安が寄せられているのが今後の課題となると感じている。

1. 具体的なセミナー事例

大阪私学教育情報化研究会主催のセミナーを担当した。大阪府下の私立小学校・中学校・高等学校の教員に加えて、公立高校教員等にも参加を呼び掛けたとのことで、中学・高校を中心とした混成の教員らが受講した。

コンピュータ教室での研修であったが、検討委員会で作成した研修カリキュラムにおおむね沿った形で展開した。内容面では、小学校の部分については必要な事項に絞って扱い、中高中心という受講者の層に応じて実施した。



大阪私学教育情報化研究会のセミナーの様子

(1) ねらい

講師養成セミナーとして、各校で情報モラルに関する校内研修等を行う際の、講師役となる先生方に必要な知識を伝えることを主眼とした。また、学校現場では入手したり、まとめたりがしにくい、統計的データ、図・表について、セミナー教材に収録したものを丁寧に説明し、学校現場での現状把握が着実になされるよう配慮することとした。

(2) セミナー実施内容

当日参加も含めて35名が受講した。また、学校行事等の都合で受講できなかったが後刻資料のみ受領された方が3名いた。

セミナー教材に沿って、以下の内容を扱った。

1. データから見るネット社会の現状
2. 情報モラルの指導（理論編）
3. 情報モラルの指導（実践編）
4. 「ネット社会の歩き方」の活用
5. その他の教材の紹介
6. 保護者との関わり
7. 問題発生時の対応
8. ワークショップ（「ネット社会の歩き方」の体験）
8. まとめ

主催者の要望により、最近の情報モラル指導上留意すべき事例の紹介を加えた。具体的には、無料ゲームサイトにおけるSNS（ソーシャルネットワークサービス）機能による「出会い」事案（それが大手サイトの監視強化により急減していること）、モデルサイト等でのわいせつ目的勧誘の事例、動画投稿サイトにマンガの海賊版を流して逮捕された中学生の事例などを紹介した。

著作権違反事例では、その後の経過についての質問があり、刑事罰は少年の場合は審判不開始または保護観察程度で済んでしまうので罰の重さによる抑止効果は望めないこと、代わって、民事において損害賠償請求があり、数億円の損害認定があることなどに触れた。

2. セミナーの感想

セミナー主催担当者が非常に精力的に受講者を募集し、当日の運営も盛り上げていただいた。ふだんから熱心に研究会活動を行っていることもあり、会場内には熱気があり、主催研究会の覇気が感じられた。若い方々の参加があったことも、とても心強く感じられた。

受講した先生方の中には、ICTに明るくない公立学校の生徒指導関係者などもいたとのことで、講演した内容のうち、ICTに関する専門用語について、講演後に主催者から受講者に対して丁寧にフォローをしていただ



大阪私学教育情報化研究会のセミナーの様子

た。たとえば、ICTの語義から説いていただく必要があったことにその時点で気づき、配慮不足であったことに赤面した。生徒指導分野や、人権教育分野など、ICTや情報教育とは畑違いの方々にもいかにわかりやすく伝えるかについて、更なる検討と改善が必要と感じられた。

3. 今後の課題

今回は、規定の研修ワークショッププログラムにあまり時間を割かずに、質疑応答や主催者側の事例紹介などに時間を充てたが、十分な質疑時間の中で、問題意識や解決策に関する情報共有が図られたこと、主催者の事例紹介において大阪という地元独特の課題や問題と、全国的な課題や問題との関連・相違について認識を図ることができたことなど、良い効果が発揮できたと思われる。

受講者間のフェロシップでワークショップ活動を行うよりも、今回のようなシンポジウム形式のワークショップ活動でリーダー数人での討論や質疑・事例紹介を行い、場内の参加者からも自由に情報提供や意見が寄せられる形態でのほうが、情報モラル研修としての意義を深められるのではないかと考えられる。このような、ワークショップの新たなバリエーションとなる実施方法・内容について、検討・改良の必要性が感じられた。たとえば、予算が許せば、複数の指定講師が指導者養成講習に訪問し、講師間の掛け合いで事例紹介や情報提供・質疑などを披露しながら、会場の参加者の意見や提案を巻き込むことで、問題意識や現状認識の共有を深められる可能性がある。

1. セミナーに関して

本セミナーにおいて、愛媛県総合教育センター、三重県津市立東橋内中学校、川崎市総合教育センターの三箇所を担当した。

三箇所とも研修時間が3時間であったので、基本的に前半を講義中心にし、休憩をはさんで後半をワークショップ中心の構成とした。

具体的には、まず前半に、データからみるネット社会の現状と情報モラルの指導（理論編・実践編）に関して講義をした。その後、昨年度「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」において改訂された、「ネット社会の歩き方」の教材を紹介し、少し時間をとって自由に閲覧させた。また、それに続いて、その他の情報モラル関連教材も紹介し、関心のある教材を中心に閲覧させた。

休憩をはさみ、後半では、保護者との関わりと問題発生時の対応について簡単に確認したあと、60分程度ワークショップの時間をとった。

ワークショップでは、グループごとに「指導者養成研修プログラムの作成」及び「校内研修プログラムの作成」の2つのテーマからどちらかを選択させて取り組ませた。そして最後に、グループの代表の方に PowerPoint や Word を使って、作成した研修プログラム案を発表させ、その発表に対して簡単な解説を加えた。

講義は本セミナーにおいて委員で作成したスライドをベースに、道徳教育における情報モラルの扱い方など、必要に応じて別途スライドを追加した。

2. セミナー実施

(1) 愛媛県総合教育センターでのセミナー

愛媛県では、今年度から新規事業としてICT活用推進リーダー養成研修を実施しており、その研修プログラムの中に情報モラル教育に関する内容を位置付けている。情報モラル教育に関しては、系統的・計画的な実践を課題としている。本セミナーを通して、各地域における情報モラルを推進するリーダーを養成することを申請理由にあげており、本セミナーの趣旨に合致していた。



愛媛県教育委員会のセミナーの様子

そのこともあり、参加者した約40名の教員（小中学校ともに約20名）は大変熱心に参加していた。セミナーにおいては、希望内容にあがっていた、効果的な研修プログラムの在り方、指導計画作成上の留意点、参考資料や指導事例の紹介に力点を置いて話をした。また、ワークショップにおいては短い時間ではあったが、各グループがそれぞれ特色ある切り口で研修プログラムをまとめ、発表していた。そのおかげで、各グループ発表後の解説も多岐にわたってすることができ、充実した研修会にすることができた。

(2) 三重県津市立東橋内中学校でのセミナー

津市では、3年前から各学校のICT化に取り組み、その中で情報モラル教育にも取り組んできている。本セミナーを通して、各学校で指導にあたる教員の指導力を高めることを申請理由にあげていた。

申請時の参加予定人数は約80名となっていたが、会場、日程等、先方の諸般の事情により当日の参加者は約20名と予定よりもかなり少ない人数であった。セミナーにおいては、情報モラル教育の具体的な指導について、理論的な内容と、ワークショップ等を通して参加者に能動的に考えさせる場面設定をお願いしたい、との要望があった。ただ、本セミナーのスライド構成が能動的に考えさせる場면을想定したものではないので、その要望に答えることはできなかった。考えさせる場면을想定した指導事例のスライドを事前に準備しておくべきだった。



津市教育委員会のセミナーの様子

また、参加者が少なかったため、ワークショップはグループ分けせずに個々に取り組みさせた。グループで相談しながら進めるよりも効率は良かったが、予想したとおり個人差が大きくなってしまった。

(3) 川崎市総合教育センターでのセミナー

川崎市では、「ネット社会の歩き方」の教材を通して、市内の各校へ情報モラル教育を普及、定着をさせることを目的として本セミナーを申請してきた。そこで、セミナーの中では「ネット社会の歩き方」の教材を丁寧に紹介し、閲覧する時間をやや多くすることで対応した。



川崎市総合教育センターのセミナーの様子

実施時期がお盆の時期だったためか、申込時点から参加予定人数も20数名と少なかったが、参加者は大変熱心に取り組んでおり、ワークショップも校種間の特色が良くできていた。

3. セミナーを終えての感想と課題

3箇所とも研修時間が3時間あったので、ワークショップまで行うことができた。講師育成セミナーであれば、ワークショップまで実施したいものである。ただ、ワークショップまで行くと3時間でも時間が足りないように感じた。多く時間を費やしていたのが、グループ内のコミュニケーションとWeb教材の閲覧であった。

コミュニケーションの問題は、このセミナーで初めて会った教員同士でテーマを絞り込み、一つの形にするにはそれなりに時間がかかるので致し方ないと思われる。個々に取り組みさせる方法もあるが、個人差が出てしまうなど一長一短があるのでなんともいえない。

Web教材の閲覧に関しては、紹介した「ネット社会の歩き方」の教材に目を通し、どの教材が適当かを短時間で選定するのは結構難しいものである。また、セミナーではこのWeb教材にこだわらず、他のサイトも紹介したので、余計に時間がかかってしまったようである。これについては「ネット社会の歩き方」の教材に限定することで対応することもできる。

ワークショップの進め方については今後も検討していきたい。

また、このセミナーでは改訂された「ネット社会の歩き方」のWeb教材の活用を推進している。そこで、この教材を紹介して閲覧させるだけではなく、この教材を使った具体的な指導事例をもう少し提示していけるようにしていきたい。

5 . まとめ

5 . 1 本年度の成果

(1) セミナー開催地の充実と約 6 0 0 名の講師の養成によるピラミッド型研修体制の確立

セミナー開催地は、平成 20 年度 6 カ所、平成 21 年度 14 カ所から、平成 23 年度 15 カ所から、本年度は 18 カ所とさらに開催地を充実させることができた。また、本年度からは、昨年度までの児童生徒と保護者を対象にしたセミナーと異なり、親子セミナーを開催できる用にするための校内研修会・地域研修会の講師となり得る人材（教員・指導主事等）約 600 名養成することができた。これによって、従来は直接セミナーを受講した児童生徒と保護者のみが本セミナーによって情報モラルを学ぶことができた状況から、約 600 名の受講者を校内研修会や地域研修会の講師として、より多くの教員が情報モラル教育の指導を児童生徒や保護者に対して実施することができるようにし、それによって従来の受講者数を大幅に上回る児童生徒・保護者が情報モラルを学ぶことができるピラミッド型研修体制を確立することができた。

(2) 講師養成セミナー後の自立展開を支援する標準カリキュラム・標準教材の開発と提供

昨年度までは、セミナー開催地の学校・教育委員会の要望により指導内容を決定し、使用する教材も講師によって異なるものを使用していた。

今年度は、だれもが本委員会委員と同様の研修会を実施することができるように、必要な内容を吟味し、講師養成セミナー用の標準カリキュラム（ワークショップありとワークショップなしの 2 種類）と読み上げ現行付きのパワーポイントと講演を録画した動画による教材や事前調査用アンケート用紙などの標準教材を作成し、本セミナー受講者が、この標準カリキュラムと標準教材を活用して、容易に校内研修会や地域研修会を実施し、さらにその受講者が児童生徒と保護者に対して情報モラル教育のはじめの一歩として、「ネット社会の歩き方セミナー」を実施できるようにすることができた。

実際、本セミナー修了後、これらの標準カリキュラムと標準教材を利用して、滋賀県・山口県等から情報モラル研修を行ったとの報告を受けた。

(3) マルチプラットフォーム対応情報モラル教材の開発とそれによる児童生徒の自学可能化

昨年度開発した音声付き高解像度の新「ネット社会の歩き方」アニメーション教材は、Flash を使用しているため、本書「3 . マルチプラットフォーム対応情報モラルデジタル教材の開発」で詳述したように、多様な携帯端末で利用することができない状況にあった。

そこで、本年度は、iOS 用（iPhone や iPad 用）アプリと Android 用アプリと 2 種類のアプリを開発し、多様な携帯端末から利用するとともに、児童生徒がゲーム感覚で情報モラルについて自主的に学ぶことができるようにした。また、これらアプリを正式なアプリ提供サイト（APPLE Store と Google Play（旧 Android Market））に登録することで、児童生徒が直接ダウンロード・インストールできるようにもした。

これは、従来の情報モラル教育が教師や外部講師による指導を大前提にしていた状況を大きく変えるものであり、児童生徒の情報モラルに関する学習状況を改善する大きな可能性を秘めている。

(3) Web教材「ネット社会の歩き方」のポータルサイト化

本事業で作成したアニメーション教材、『親子のためのネット社会の歩き方』テキスト、同セミナー講師用プレゼンテーション等の各種教材と、これまでCECで開発してきた情報モラル教育関連の各種教材（情報モラル指導者養成研修会」のテキスト・講師用プレゼンテーション・研修会映像教材等）を、Web教材「ネット社会の歩き方」の中に一括して掲載した。また、CEC以外の文部科学省、教員研修センター、各種団体の情報モラル教育関連資料へのリンク集も備えて、「情報モラル教育に関する資料はここに来ればすべて見るができる」という「ポータルサイト化」をはかることができた。

さらに、文部科学省による最新の新学習指導要領準拠情報モラル教育資料『情報モラル教育実践ガイド』の作成と連携してポータルサイト化を進め、モデルカリキュラム改訂版（情報モラル教育チェックリスト）に準拠してWeb教材を配列し、同資料の中で紹介された指導事例を「ネット社会の歩き方」が連動して補うようにした。全国の学校に学年1冊＋ で配布され、新学習指導要領で「すべての教科等ですべてお教員が情報モラル教育を実施すること」が義務づけられ、同資料を基に全国の教員が情報モラル教育を実施する際、「ネット社会の歩き方」がより活用され、情報モラル教育の充実に資することができるようになった。

5.2 次年度へ向けての課題

(1) 指導者研修の実施継続によるさらなる情報モラル教育の普及促進

本年度は、約600名の講師を養成することができたが、新学習指導要領で目指す「すべての教科等ですべての教員が情報モラル教育を実施」することを実現するためには、今後も本セミナーによる指導者研修を継続的に実施し、全国で情報モラル教育に関する研修会が自立展開されるよう支援していくことが必要である。

また、その効果をより上げていくためには、指導者養成用教材のさらなる改善を図り、専門知識を持たない教員でも適切に校内研修会・地域研修会を実施することができるよう、提供教材の改善をあわせて進めていかなければならない。

(2) 社会のニーズに応えるインターネットリテラシー教材の開発

現在、パソコンや携帯電話、スマートフォン、ネット接続可能なゲーム機など多様な情報端末が普及し、子どもたちが日常的にインターネットを生活や学習の場で活用するようになってきている。このような中で、子どもたちがトラブルに巻き込まれることがないよう情報モラル教育を行うと共に、適切にインターネットを活用することができるようにする積極的な情報教育も求められている。

CECでも、情報モラル教育に関する様々な教材開発を進めると共に、これと並行してメディアリテラシー教育のあり方に関する研究も進めてきた。

そこで、これらの成果を生かしつつ、上述の社会的ニーズに応えるため、情報モラル教育とメディアリテラシー教育を表裏一体の者として扱うより実践的な「インターネットリテラシー教材」の開発が望まれる。

アンケート質問票

アンケート イメージ

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー アンケート

1. 受講者プロフィール 該当する項目を○で囲んで下さい。

- ① 性別、年齢：男・女 20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代
② 所属：学校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、その他) 行政
③ 職名：校長、副校長、教頭、教諭、指導主事、その他()
④ 主な分掌分野：教科指導、生徒指導、教務、情報教育、研修、その他()
⑤ 担当教科：小学校、情報、技家、国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、書道、
保体、その他()

2. 過去に、情報モラル指導者を養成するための研修会に参加したことがありますか。 1:ある 2:ない

3. 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。 1:ある 2:ない

4. 本セミナーの受講動機について、該当する項目の番号を○で囲んで下さい。(複数回答可)

- 1:情報教育の担当になっているため 2:情報モラル指導のレベルアップのため
3:上司からの指示があったため
4:その他()

5. 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になりますか。

4段階で評価して下さい。また、そのように判断した理由をお聞かせ下さい。

参考にならない ○ ○ ○ ○ 参考になる
1 --- 2 --- 3 --- 4

理由:

6. 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会実施の際に活用できますか。

4段階で評価して下さい。また、そのように判断した理由をお聞かせ下さい。

活用できない ○ ○ ○ ○ 活用できる
1 --- 2 --- 3 --- 4

理由:

7. 本セミナー以降に、情報モラルに関連したセミナーや研修を開催する予定がありますか。

- 1:開催予定はなし 2:現在予定はないが計画する 3:開催予定がある
4:その他()

8. その他、ご感想やご意見がありましたらご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。

「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー 実施報告書

発行・著作 財団法人コンピュータ教育開発センター

〒108-0072 東京都港区白金1丁目27番6号

TEL 03-5423-5911 (代表)

FAX 03-5423-5916

<http://www.cec.or.jp/CEC/>

禁無断転載



Center for Educational Computing